



スーパーアグレッシブ

春と言えば、「桜」「入社式」「入学式」などが思い浮かびます。そして、もう一つ、選抜高校野球（春の甲子園）も春の風物詩です。今年も、大阪桐蔭高校の優勝で幕を閉じました。残念ながら、香川県からの出場はありませんでしたが、春の香川県大会では、小豆島高校が春夏秋を通じて初めて優勝を果たしました。その小豆島高校を優勝に導いたのが「スーパーアグレッシブ（超攻撃）野球」。第1ストライクから積極的に打っていく、塁に出れば積極的に盗塁するなど、失敗を恐れず、のびのびとしたプレーで栄冠を勝ち取りました。下に紹介した新聞記事（4/2四国新聞）からも、“プラス思考”の大切さがうかがえます。

また、ゴルフの石川遼選手も注目を浴びています。残念ながら、マスターズ優勝は果たせませんでした。 「みんなの倍の練習が必要」「世界一好かれる選手になりたい」という言葉は心に響きます。

- 昨秋は準々決勝で優勝した高松商に逆転サヨナラ負け。優位な展開だっただけに、ひときわ悔しい冬を過ごした。あと一步・・・と考えるのが普通なのだろうが、主将の土居は「一步を追いつくんじゃない。百歩前に行く。大きな差をつけようと練習した」と言う。4強の壁を突破した後もその思いはぶれず、決勝で成果を見事結実した。12人の小所帯だが、選手たちは「いっぱい練習できる。人数が少ないのはメリット」と悲観していない。島から試合会場へ向かう約1時間のフェリーも、試合に向けた意思統一や反省を繰り返す重要なミーティングの場。逆境を次々とプラスに変えた。

ひたむきな姿勢が球運もたぐり寄せた栄冠だ。表彰式でマウンド横へ整列する。相手よりちょっと短い列に、「24の瞳」をキラキラと輝かせる誇らしげな笑顔が並んだ。

- プロゴルファーの石川遼選手が小学校の卒業文集に書いた夢は「20歳でマスターズに勝つこと」。15歳で日本国内のプロツアーで初優勝、その2年後には史上最年少で賞金王になるなど、数々の目標をかなえてきた彼にとっても、「20歳の夢」は大きく立ちのびる。彼の卒業作文には「みんなの夢もぼくと同じだと思います。でもぼくは2回（マスターズ）勝ちたいので、みんなの倍の練習が必要」と書いているほか、「世界一強くて、世界一好かれる選手になりたい」と宣言している。

新しいクラスになって一週間が過ぎました。環境が大きく変わり、緊張や不安で疲れもたまっている人もいることでしょう。でもその一方、新しい自分を表現するチャンスするときでもあります。他人と過去は変えられませんが、自分と未来は変えられます。失敗を恐れず、何事にも積極的に挑戦してみてください。

三豊市HPに載りました

前号で、三豊市のホームページ「みとよHOTほっとNEWS」の3月に、“菜の花プロジェクト”が載っていることを紹介しましたが、今度は、入学式の様子が載りました。4月10日「新しい制服に身を包んで（市内各小中学校入学式）」のタイトルで、小学校3校、中学校1校が紹介されていますが、その1校に詫間中学校が選ばれました。

ホームページを見ることができない人がいるかもしれないと思い、市の担当の方に連絡したところ快く承諾していただきました。

この3枚の写真から、元気な返事はわかりませんが、厳粛な雰囲気と温かい様子が伝わってきます。これも、“発信！それだけじゃない詫間中”です。

